

案件1

社会資本総合整備計画 の事後評価について

1.社会資本整備総合交付金

1－1. 社会資本整備総合交付金

社会資本整備総合交付金

成長力強化や地域活性化等につながる事業

主に污水事業

- 未普及解消のための新規整備
- 資源・エネルギー利用 など

主に雨水事業

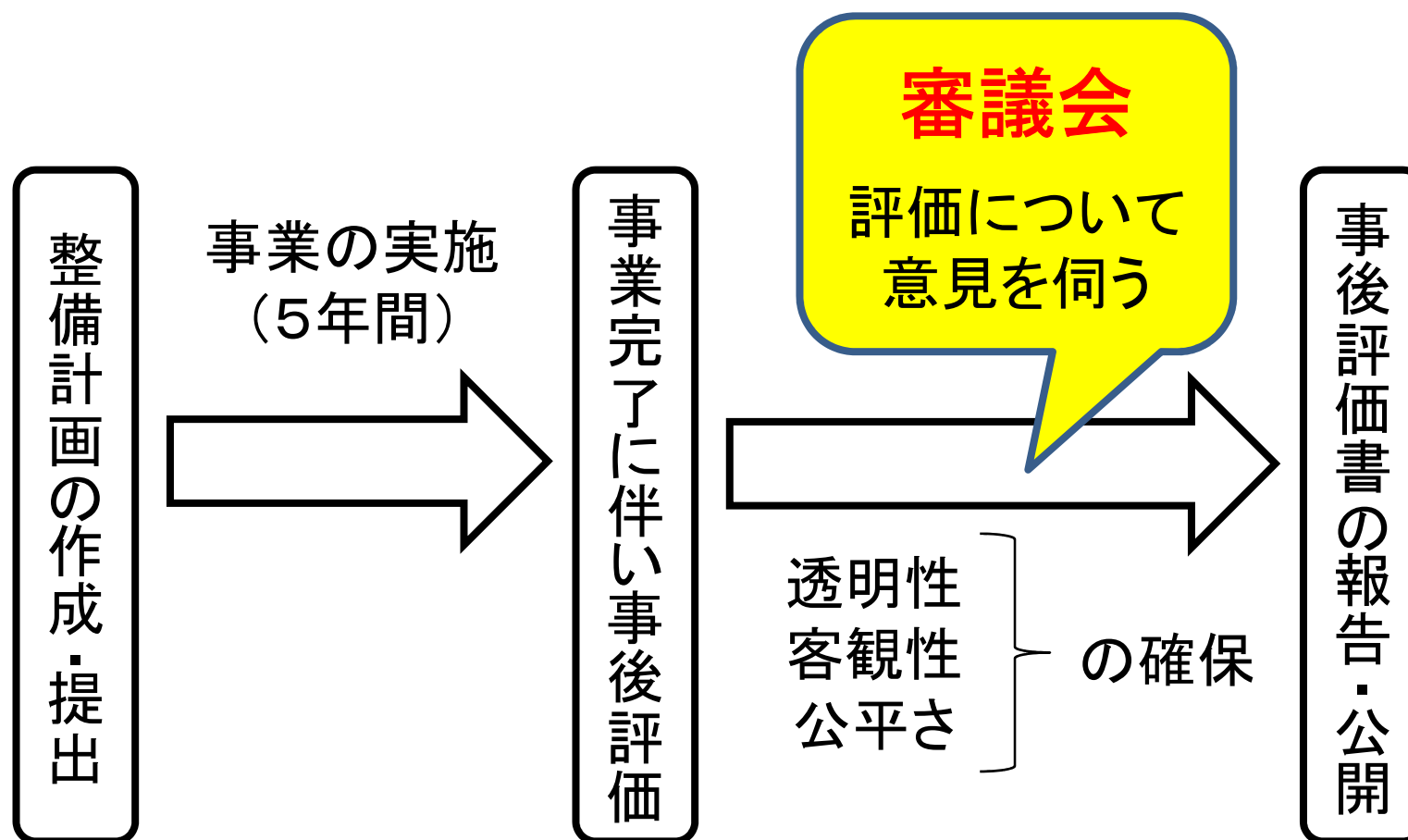
- 浸水対策
- 老朽化対策
- 地震対策 など

防災・安全交付金

「命と暮らしを守るインフラ再構築」、
「生活空間の安全確保」を集中的に支援

1.社会資本整備総合交付金

1－2. 交付金交付事業の流れ



1.社会資本整備総合交付金

1－3. 重点計画

平成30年度より、重点配分の対象となる事業のみで構成される「整備計画」に対して重点的な予算措置を実施

社会資本整備総合交付金

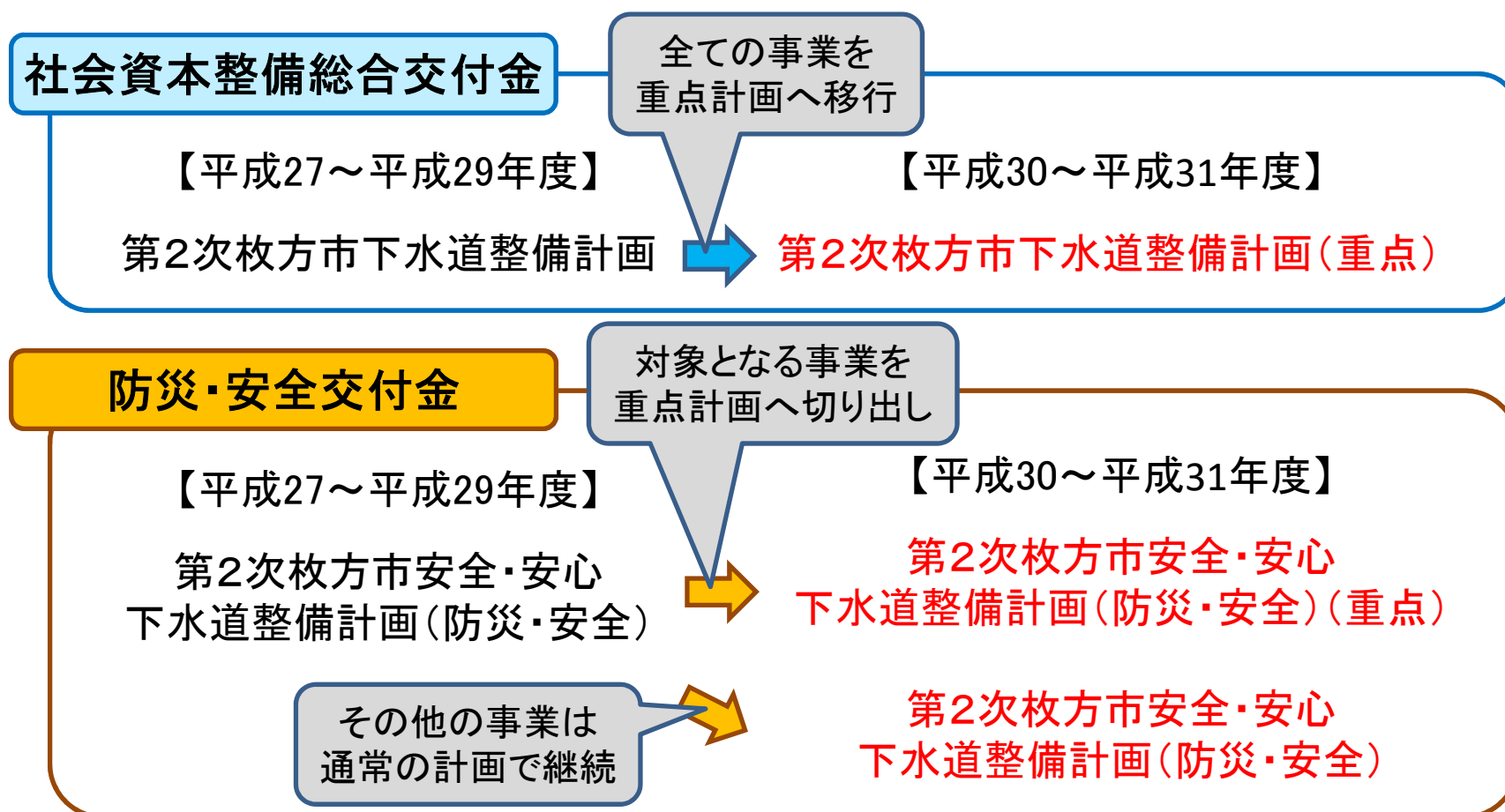
- ①アクションプランに基づく下水道未普及対策事業
- ②PPP/PFI、下水汚泥のエネルギー利用、広域化・共同化の取り組みを推進するため追加的に必要となる下水道事業

防災・安全交付金

- ①各公共地方団体が定める下水道事業計画に基づく雨水対策事業
- ②国民の安全・安心の確保に向けた以下の取り組みを推進するため追加的に必要となる下水道事業
 - ・南海トラフ地震等の対象地域における重要施設の地震対策
 - ・下水道総合地震対策事業・下水道施設の耐水化・非常用電源確保

1.社会資本整備総合交付金

1－4. 評価対象となる整備計画



2.事後評価(社会資本整備総合交付金)

2-1. 整備計画(社会資本整備総合交付金)

計画の名称 : 第2次枚方市下水道整備計画(重点)

計画の期間 : 平成27年度 ~ 平成31年度(5年間)

計画の目標 : 下水道事業を推進することにより「快適な生活環境の創造」を目指し、枚方市上下水道ビジョンに掲げる下水道の役割の実現を図る。

定量的指標 : 下水道整備人口普及率の向上(+2.0ポイント)

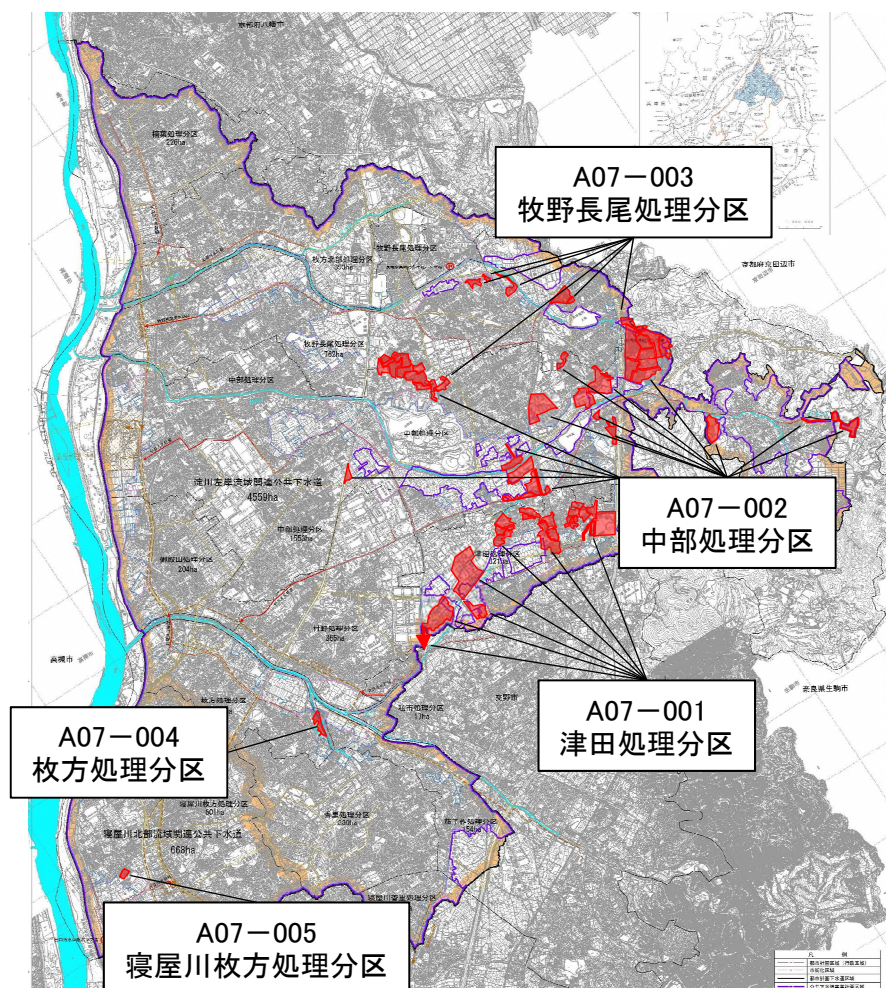
定量的指標の定義及び算定式

汚水整備人口普及率(%) =

下水道整備区域内人口(人) / 行政人口(人) × 100

2. 事後評価(社会資本整備総合交付金)

2-2. 事業の進捗状況(社会資本整備総合交付金)



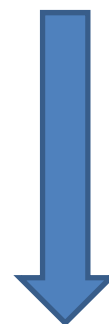
凡 例	
新 設	
増 設	
改 築	
既 設	
下水道法における事業計画区域	

2. 事後評価(社会資本整備総合交付金)

2-3. 事業効果の発現状況①

①水洗化人口の増加により
生活環境の改善を図ることができた。

平成27年度当初 372,401人



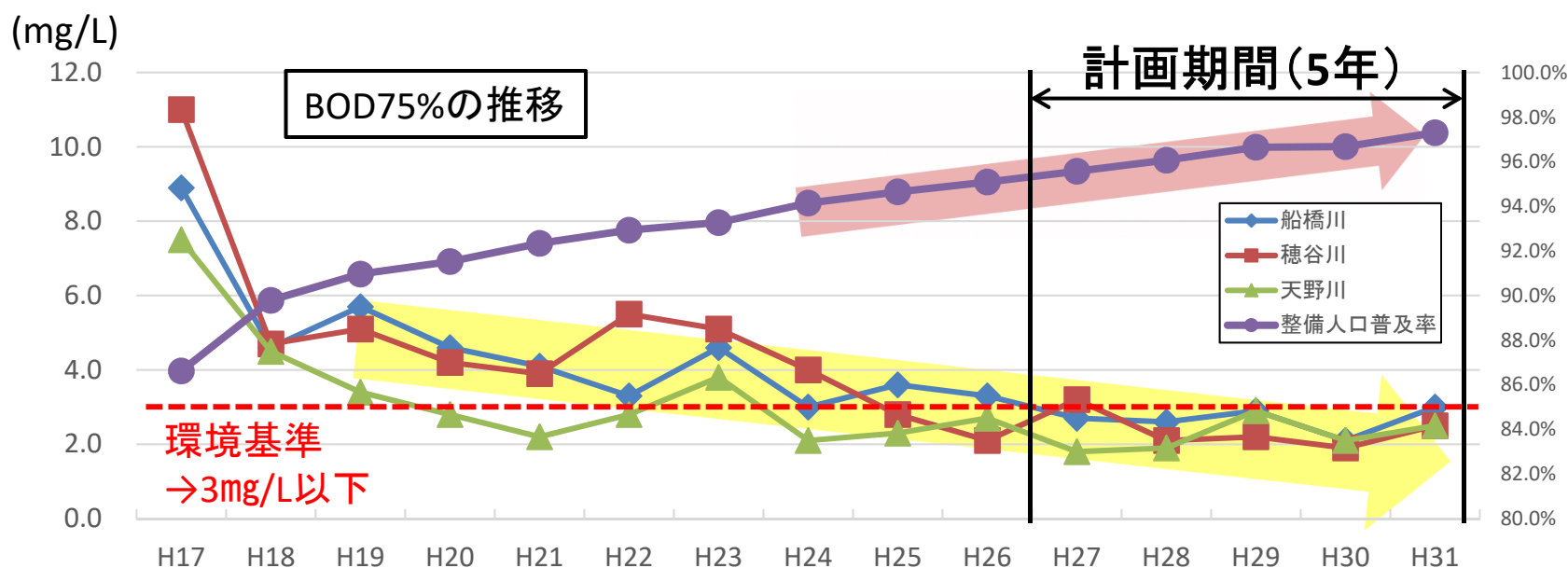
水洗化人口
+3,778人

平成31年度末 376,179人

2. 事後評価(社会資本整備総合交付金)

2-3. 事業効果の発現状況②

②市内河川のBOD(生物化学的酸素要求量)の環境基準を達成し、公共用水域の水質の改善に寄与した。



2. 事後評価(社会資本整備総合交付金)

2-4. 目標値の達成状況

下水道整備人口普及率

＜平成27年度当初＞

$$386,286人 \div 406,228人 \times 100 = 95.1\%$$

＜平成31年度末＞

$$389,151人 \div 399,953人 \times 100 = 97.3\%$$

+2.2ポイント

目標達成

3. 事後評価(防災・安全交付金)

3-1. 整備計画(防災・安全交付金)

計画の名称 : 第2次枚方市安全・安心下水道整備計画
(防災・安全)

計画の期間 : 平成27年度 ~ 平成31年度(5年間)



重点配分の対象となる事業を切り出し

3-2. 整備計画(防災・安全交付金)(重点)

計画の名称 : 第2次枚方市安全・安心下水道整備計画
(防災・安全)(重点)

計画の期間 : 平成30年度 ~ 平成31年度(2年間)

3. 事後評価（防災・安全交付金）

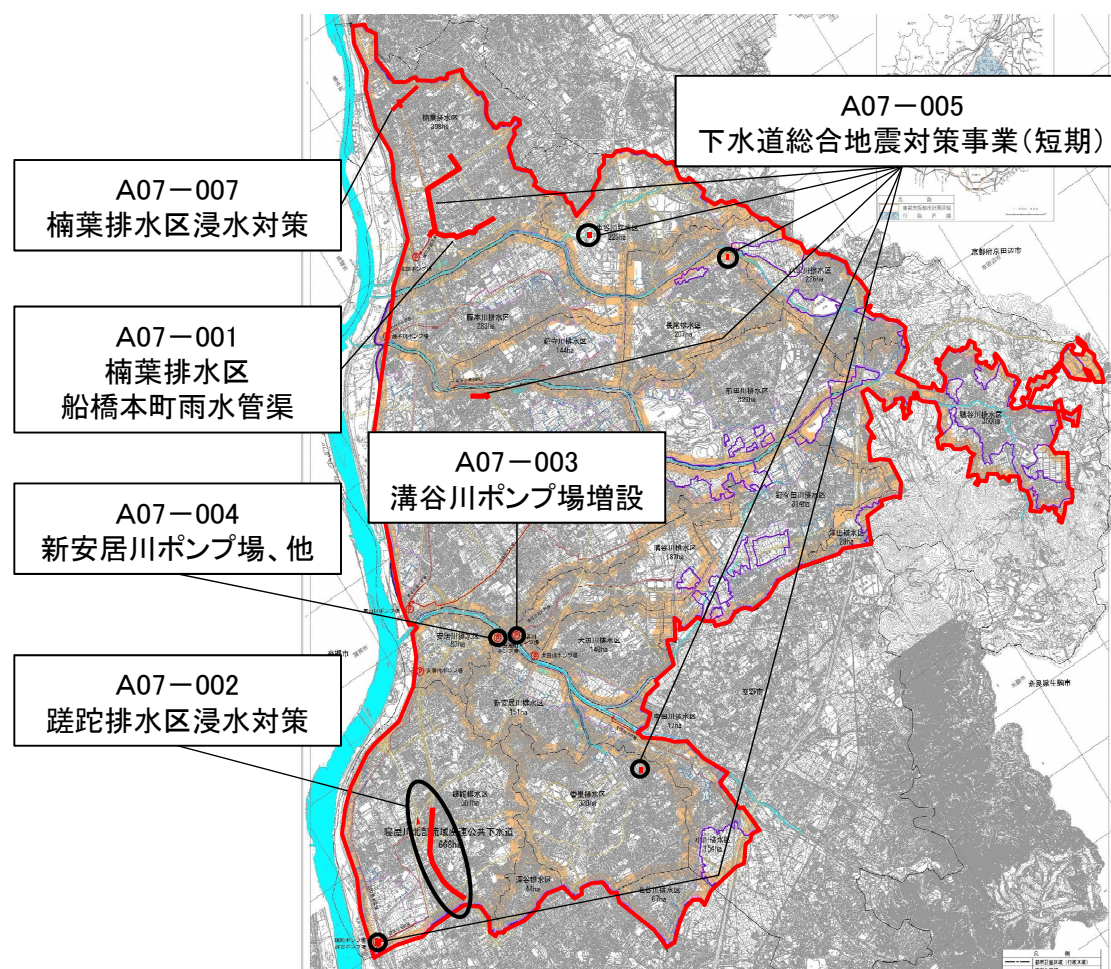
3－3. 計画の目標

計画の目標：下水道事業を推進することにより「安全・安心な市民生活の確保」を目指し、枚方市上下水道ビジョンに掲げる下水道の役割の実現を図る。

定量的指標：「3－7. 目標値の達成状況」にて説明

3. 事後評価(防災・安全交付金)

3-4. 事業の進捗状況(防災・安全交付金)



凡 例	
新 設	—
増 設	—
改 築	—
既 設	—
下水道法における 事業計画区域	- - -

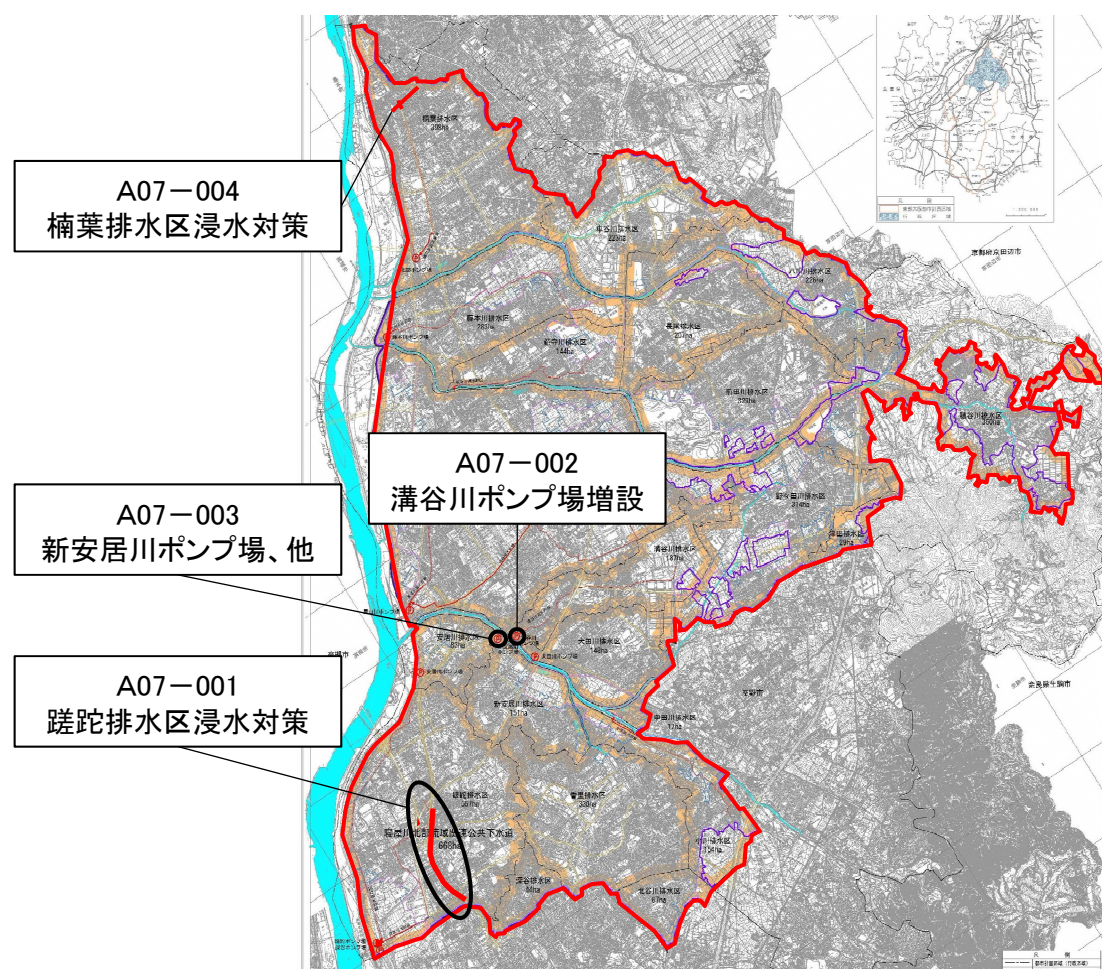
A07-006
下水道総合地震対策事業(中期)
対策区域: 市内下水道計画区域

A07-008
下水道長寿命化計画事業
対策区域: 市内下水道計画区域

A07-009
下水道ストックマネジメント事業
対策区域: 市内下水道計画区域

3. 事後評価(防災・安全交付金)

3-5. 事業の進捗状況(防災・安全交付金)(重点)



凡 例	
新 設	—
増 設	—
改 築	—
既 設	—
下水道法における 事業計画区域	- . -

A07-008
下水道長寿命化計画事業
対策区域: 市内下水道計画区域

3. 事後評価(防災・安全交付金)

3-6. 事業効果の発現状況

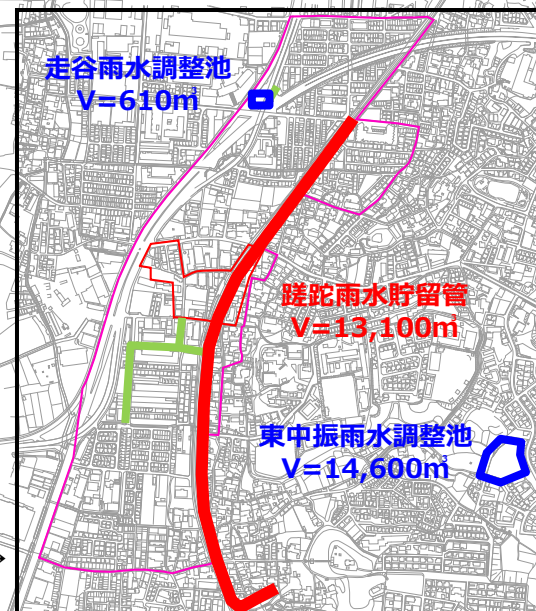
下水道施設の整備により浸水被害の軽減に繋がり、安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与することができた。



完成後、整備地区で
大きな浸水被害なし

↑ 楠葉排水区 船橋本町雨水管渠
(平成29年度完成)

蹠跢排水区浸水対策 →
(平成31年度完成)



3. 事後評価（防災・安全交付金）

3-7. 目標値の達成状況①

通常1

楠葉排水区において計画降雨（10年確率降雨）に対する主要な幹線管渠の整備率を44.3%（H27）から59.0%（H31末）に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

楠葉排水区における主要な幹線管渠の整備率（%）
＝ 主要な幹線管渠整備済み延長（m）
／ 主要な幹線管渠延長（6,101m） × 100

<平成27年度当初>

$$2,704\text{m} / 6,101\text{m} \times 100 = 44.3\%$$

<平成31年度末>

$$3,736\text{m} / 6,101\text{m} \times 100 = 61.2\%$$

目標達成

3. 事後評価（防災・安全交付金）

3-7. 目標値の達成状況②

通常2、重点1

溝谷川ポンプ場の沈砂池及び沈砂池設備の整備率を25.0%（H27）から100.0%（H31末）に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

溝谷川ポンプ場の沈砂池及び沈砂池設備の整備率（%）
＝沈砂池及び沈砂池設備の整備済み池数（池）／沈砂池
及び沈砂池設備を整備すべき池数（4池）× 100



沈砂池

<平成27年度当初>

$$1 \text{ 池} / 4 \text{ 池} \times 100 = 25.0\%$$

<平成31年度末>

$$4 \text{ 池} / 4 \text{ 池} \times 100 = 100.0\%$$

目標達成



沈砂池設備（除塵設備）

3. 事後評価（防災・安全交付金）

3-7. 目標値の達成状況③

通常3、重点2

新安居川ポンプ場のポンプ能力を34.4%（H27）から78.3%（H31末）に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

新安居川ポンプ場のポンプ能力（%）

= 整備済みポンプ能力（ m^3/s ）

／ 整備すべきポンプ能力（ $19.833\text{m}^3/\text{s}$ ） $\times 100$



新安居川ポンプ場外観

<平成27年度当初>

$$6.83\text{m}^3/\text{s} \div 19.833\text{m}^3/\text{s} \times 100 = 34.4\%$$

<平成31年度末>

$$15.53\text{m}^3/\text{s} \div 19.833\text{m}^3/\text{s} \times 100 = 78.3\%$$

目標達成

3. 事後評価（防災・安全交付金）

3-7. 目標値の達成状況④

通常4、重点3

蹠跚排水区における浸水被害軽減計画に計画されたハード施設を33.3%（H27）から100.0%（H31末）に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

蹠跚排水区における浸水被害軽減計画に計画されたハード施設の整備率（%）＝整備済みハード施設（基）／整備すべきハード施設（3基）× 100

<平成27年度当初>

$$1 \text{ 基} / 3 \text{ 基} \times 100 = 33.3\%$$

<平成31年度末>

$$3 \text{ 基} / 3 \text{ 基} \times 100 = 100.0\%$$

目標達成

東中振雨水調整池



蹠跚雨水貯留管



走谷雨水調整池

3. 事後評価(防災・安全交付金)

3-7. 目標値の達成状況⑤

通常6、重点4

楠葉排水区における浸水被害軽減計画に基づきハード施設の実施設計を行い(H28)、ハード整備率を0.0%(H29)から69.1%(H31末)に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

楠葉排水区における浸水被害軽減計画に計画された
ハード施設の整備率(%) = 整備済みハード管渠延長(m)
／整備すべきハード管渠延長(1,556m) × 100

＜平成27年度当初＞ 当初: φ4750mm、L=1,100m(全体1,590m) → 69.1%

$$0\text{m} / 1,590\text{m} \times 100 = 0.0\%$$

＜平成31年度末＞ 変更: φ5000mm、L=1,021m(全体1,556m) → 65.6%

$$1,021\text{m} / 1,556\text{m} \times 100 = 65.6\%$$

目標達成

※延長1,021mの
貯留管本体が完成

3. 事後評価（防災・安全交付金）

3-7. 目標値の達成状況⑥

通常5

総合地震対策に計画された管渠の整備率を7.2%（H27）から100.0%（H31末）に向上させる。

【定量的指標の定義及び算定式】

総合地震対策に計画された管渠の整備率(%) =
計画された整備済み管渠延長(m) /
計画された整備すべき管渠延長(1,800m) × 100

<平成27年度当初>

$$120\text{m} / 1,800\text{m} \times 100 = 7.2\%$$

<平成31年度末>

$$1,800\text{m} / 1,800\text{m} \times 100 = 100.0\%$$

目標達成